2018 第6号（年4回発行）

CHITAREHA INFORMATION MAGAZINE

知多リハビリテーション病院情報誌

知多リハだより

地域で求められる役割を含め、回復期リハビリテーション病棟のあるべき姿

知多リハビリテーション病院リハビリテーション部では、リハビリテーション専門職である理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）が、入院リハビリ・外来リハビリ・訪問リハビリ・通所リハビリ業務に携わっております。特に、回復期リハビリテーション病棟では、①集中的な訓練を提供するため365日リハビリテーション、②生活場面を考えて訓練室だけではなく、病棟訓練の実施 、③朝から夜まで生活に合わせてリハビリテーション（早番出勤・遅番出勤によるモーニングケア・イブニングケア）などの特色を活かし、多職種連携のもとチーム医療を実施しております。

今年度、平成30年は6年おきの医療・介護同時改定でしたが、あらためて地域医療構想や地域包括ケアを意識した、今後のあるべき姿を考える時だと感じております。回復期リハビリテーション病棟で言えば、全国的に量的整備はほぼ達成してきており、質が問われる時代です。これを象徴するのが、アウトカム評価（実績指数）の導入です。実績指数とは、入院から退院までにどれだけADLが向上したかという点と、入院した日数（在院日数）という点から、計算して算出される改善度を示す数値です。今回の改定では、実績指数によるアウトカム評価が強化されています。これは、回復期リハビリテーション病棟での退院や在宅復帰のタイミングが少しずつ早くなってくる可能性も考えられます。そのため、退院後のフォローアップや生活期リハ（介護保険）との連携強化を図り、その人らしく生活するための支援をどのように地域に還元できるか考えていかなければならいと感じております。

医療法人メディライフ　知多リハビリテーション病院
リハビリテーション部　科長　作業療法士　西田健二

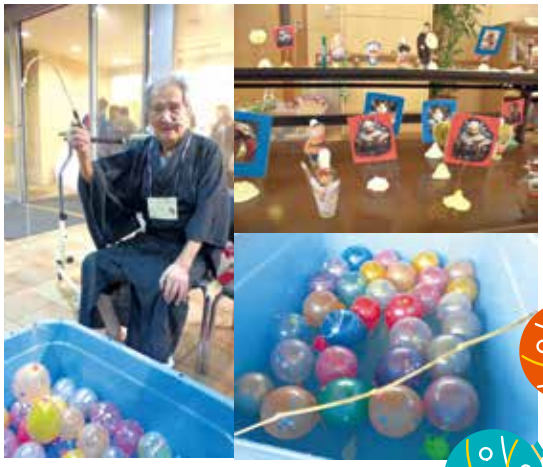
今後も質の高いリハビリテーションを提供できるよう努力していき、決して、実績指数の数値だけにとらわれず、在宅・地域生活への復帰に向けて、多職種連携のもと退院支援して参ります。

知多リハ祭り 2018

回復期リハビリテーション病棟では、患者様に多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施しています。また、毎日一生懸命リハビリを行っている患者様に、少しでも気分転換をしてリハビリの励みになればと、病棟行事にも力を入れて取り組んでおります。今回、9月8日(土)に開催しました『知多リハ祭り』についてご紹介させて頂きます。

この『知多リハ祭り』は当院の職員が、入院中の患者様に昔を思い出してもらったり、少しでも入院生活を楽しんで頂くため、また地域の皆様方との交流をより一層深めたいという気持ちから、半田市有脇1区の皆様方の協力の元、約8年前から開催しています。有脇地区の皆様のご協力で飾りつけをして頂き、今年の夏もまたリハビリテーションセンターは、一夜限りのお祭り会場となりました。

患者様だけではなく、ご家族様、地域の皆様も楽しまれ、素晴らしいお祭りとなり、記憶の中に残る良き思い出となりました。毎年趣向を凝らして盛り上げてくれます有脇の皆様は、今年は流行りの荻野目洋子さんのダンシングヒーローに合わせて踊りを披露してくださいました。会場の雰囲気を変える程の熱気で、大いに盛り上がりました。患者様からも「楽しかった」との言葉をいただき、当院スタッフも励みになりました。興奮が冷めない夜となったので、患者様ももしかしたら眠れない夜となったかもしれませんね(笑)。



盆踊り以外では、毎年恒例のパンやプリン、アイスクリームの販売や輪投げ、吹き矢、水風船釣りなど各種ゲームを出店しました。メインの盆踊りと同じく大盛況でした。

院内喫茶店なちゅ(NPO法人ふわり社会福祉法人むそう様)、日本福祉大学、当法人関連事業所からのボランティアスタッフのご協力により、患者様やご家族様には「夏」を感じて頂き、短い時間ではありましたが、楽しいひと時を過ごして頂くことができました。

今後も患者様の入院生活の励みになるようスタッフ一同心に残る行事を企画していきたいと思います。

当院における取り組みについて

当院は毎年、教育計画を策定し、年間を通して院内勉強会を実施しています。今年度の計画を話し合う中で、「地域包括ケアシステムの実現に向けて、当院の日常の取り組みを広く地域のみなさまと共有する機会を設けてみてはいかがなものか。」との議案が挙がり、今回8月22日に外部事業所を招いた地域連携懇話会を開催する運びとなりました。

当日は居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、福祉用具事業所、地域活動センターの方々34名と院内スタッフ48名の合計82名に参加していただくことができました。当院を退院された患者さんの症例報告と入院中の介入方法についてグループワークを実施しました。本症例は個人・環境因子において私たちの介入にもっと工夫することができたのではないか、地域生活ではこうした症例は珍しいものではなく院外事業所の方の意見も聴き、今後の業務の参考にしたい気持ちも運営側としては抱いていました。

他事業所のみなさまとのグループワークは初めてで多少の不安もありましたが、お互いの意見を尊重しつつも的確に各職種ならではの活発で建設的な意見交換がどのグループからも聞こえてきました。私たちは普段から他職種同士のコミュニケーションは多く取っていますが、地域を支える外部事業所とのこうしたディスカッションはとても新鮮で有意義なものとなりました。

当院は開院して13年目になります。これまで2000名を超える入院患者さんのリハビリテーションを提供し、数多くの事業所の方と連携を図ってきました。今後、超高齢化社会を迎える日本においてここ知多半島も例外ではありません。地域包括ケアシステムの構築には今まで以上にシームレスな連携が求められます。今回は当院の普段の取り組みをグループワークを通して知ってもらいたいと開催しました。来年度以降も工夫を凝らして開催していきたいと思っています。みなさまこれからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

中学生の職場体験学習

当院では、毎年近隣の中学校から将来の職業選択についての学習を深めるために、職場体験学習を受け入れています。今年度は、7/30・31乙川中学校2年生3名、8/6・7・8亀崎中学校2年生2名の実施させて頂きました。

皆さんそれぞれに最初は緊張した面持ちで、職員からの説明を聞いていましたが、最終日には笑顔も増え、積極的に患者様に声をかけたり、スタッフに質問をしていました。何事にも、積極的に取り組まれる学生さんの姿にはとても感心させられました。また、学生さんから元気と明るさをもらい、私たち職員も刺激を受け、なにか昔の自分に少し戻れたような3日間となりました。

学校や家でのお手伝いは経験したこともあると思いますが、先生もご家族様もいない環境の中で、今回の職場体験学習を通じて、働くことの難しさや厳しさ、そして喜びを学ぶことができ、将来の夢のために少しでもお役に立てたら嬉しく思います。

今後も、積極的に職場体験学習を受け入れ、地域に貢献できるリハビリテーション病院として、日々努力していきたいと思います。

機能障害により引き起こされた生活障害に対して、早期から充実したリハビリテーションを提供しています。患者さまの自立性を高め、生活再建を果たせるよう共に努力し、ご支援いたします。

Chita Rehabilitation Hospital

医療法人 メディライフ
知多リハビリテーション病院
TEL(0569)20-2210
FAX(0569)20-2212
ホームページアドレス
http://medi-life.jp/

〒475-0017
愛知県半田市有脇町13-101
TEL(0569)20-2210
FAX(0569)20-2212

診療時間：月～土(祝日を除く)
9:00～12:00(受付は8:30から)
診療科目：リハビリテーション科
脳神経外科・整形外科
◎通所リハビリテーション
(1～2h・3～4h)
◎訪問リハビリテーション

随時院内見学お受けします